

先生のための経済教室  
経済学から見た社会福祉

中島隆信

慶應義塾大学

2022年 12月 27日

ホームページ <http://www.nakajima-ri.net/>

# 経済学を学ぶことの意味

- ▶ 社会現象を“科学的”にとらえる
  - ▶ 社会を観察し、問題点を見つける
  - ▶ 仮説を立て、検証する
  - ▶ 結果を踏まえ新たな知見を見いだす
- ▶ 仮説を立てるには“考え方”が必要である
  - ▶ 社会現象の背景には人間の行動がある
  - ▶ 人間行動の背景には“動機”がある
  - ▶ 動機の背景には“心理”がある
- ▶ 社会科学における“正解”の意味を知る
  - ▶ 経済学の考え方は“公理系”である
  - ▶ 正解とは“公理系”の中の論理整合性
  - ▶ それがそのまま社会で通用するとは限らない

# 社会福祉を経済学で扱うことの難しさ

- ▶ 事前コストと事後コスト
  - ▶ 医学モデルか社会モデルか、法定雇用率、合理的配慮
- ▶ 受益者と負担者の乖離
  - ▶ 消費者ニーズが見えにくくなる
- ▶ 社会収支と事業者収支の逆転
  - ▶ 事業者の収入は社会の費用、cf. 奨学金
- ▶ 消費と投資の混同
  - ▶ 費用対効果を無視して無期限に続けられる訓練
- ▶ 差別と配慮の線引き
  - ▶ 当事者と支援者間の情報の非対称性

# 次の問題をどう扱うか

## 命の優先順位

- ▶ 誰を優先的に助けるか

## 出生前診断

- ▶ 生まれる権利はあるのか

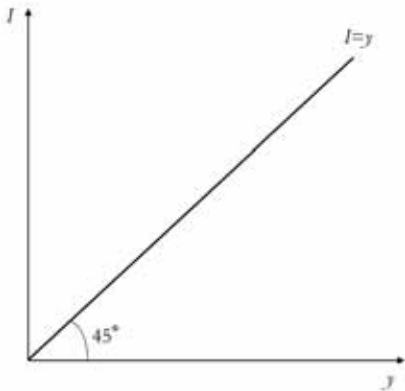
## 高齢者医療

- ▶ どこまで若年層が負担すべきか

## 福祉の最適水準

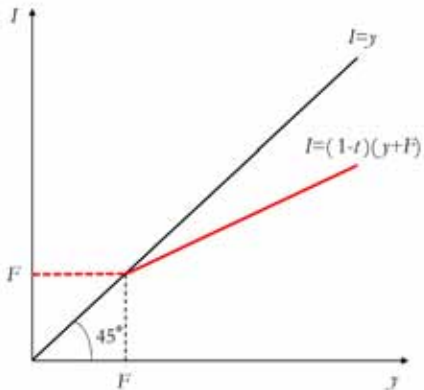
- ▶ モラルハザードを防ぐべきか cf. 生活保護

# 社会保障と課税がないとき



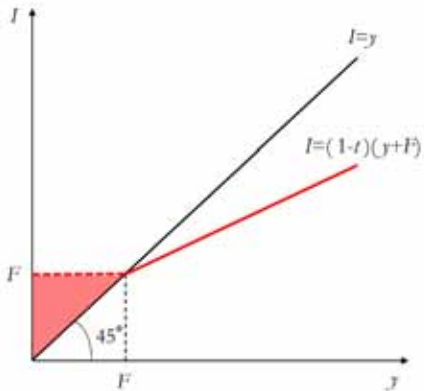
- $y$ : 給与所得
- $I$ : 税引き後所得

# 生活保護制度があるとき



- $t$ : 所得税率
- $F$ : 必要最小所得
- $y$  が  $F$  を超えない人には  $I$  が  $F$  に等しくなるまで所得保障をする
- $y$  が  $F$  を超える人には超えた分について所得課税する

# 生活保護制度の問題点

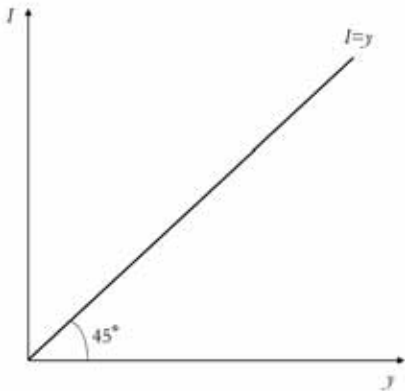


- 塗りつぶし = 生活保護費

このとき...

- $y < F$ の人たちには働くインセンティブがない

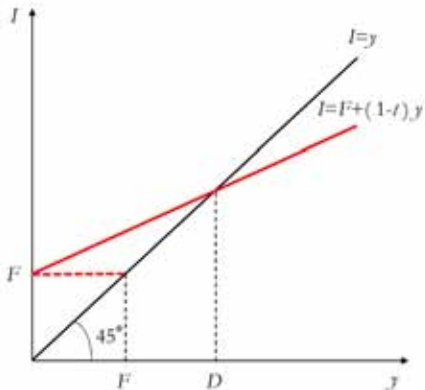
# 負の所得税



- 一定額を超えた分に所得税を課し、足りない分に補助（負の所得税）を付与する

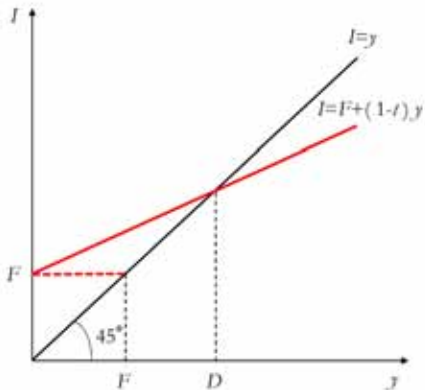


# 負の所得税



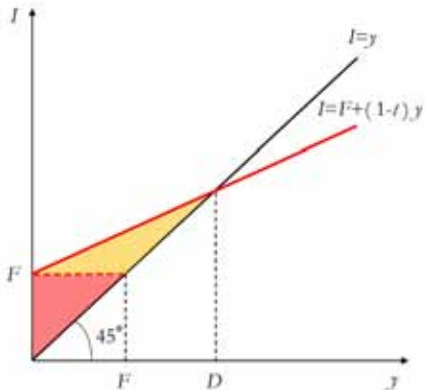
- $D$ を所得税控除額とする
- $D$ を超えた分に所得税を課し、足りない分に負の所得税を付与する
- $I=y-t(y-D) \rightarrow I=tD+(1-t)y$
- $tD=F$ になるように  $D$ を決めれば  $y$ がゼロの人にも  $F$ は付与される

# 負の所得税の利点



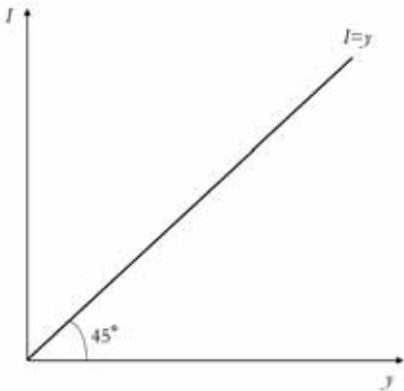
- $y < F$ の人たちにも働くインセンティブが生まれる
  - 生活保護制度のときのように受給者に就労の働きかけをする必要がなくなる
  - 生活保護受給資格の細かいチェックが必要なくなる
- つまり・・・
- 行政（徴税）コストが下がる

# 負の所得税の問題点



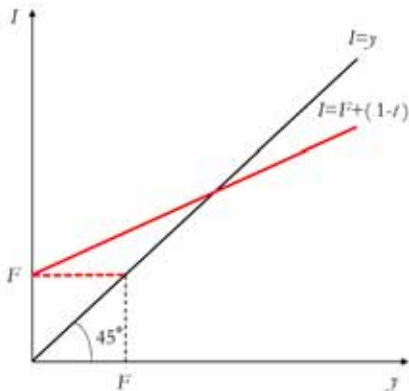
- 塗りつぶし = 負の所得税
- 生活保護制度のときよりもゴールドの部分だけ保障額が増えているため、その分だけ税収を増やさなければならない
- $y$  の正確な把握が必要となる  
→ マイナンバー制度

# ベーシックインカム



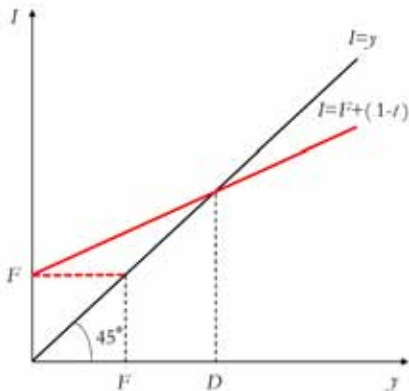
- 必要最小所得 ( $F$ ) を全員に与えたうえで、全員に所得税を課す

# ベーシックインカム



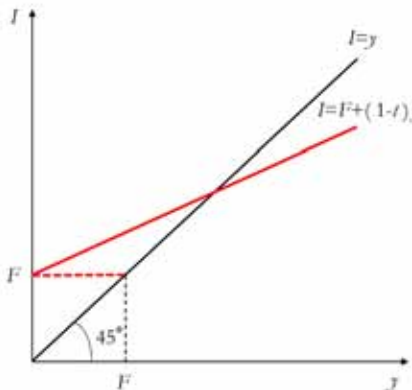
- 必要最小所得 ( $F$ ) を全員に与えたうえで、全員に所得税を課す
- $I=F+(1-t)Y$

# ベーシックインカム



- 必要最小所得 ( $F$ ) を全員に与えたうえで、全員に所得税を課す
- $I=F+(1-t)y$
- この  $I$  と  $y$  の関係は負の所得税のときと同じである

# ベーシックインカム



- 必要最小所得 ( $F$ ) を全員に与えたうえで、全員に所得税を課す

$$I=F+(1-t)y$$

- この  $I$  と  $y$  の関係は負の所得税のときと同じである

違いはインセンティブ構造

- 負の所得税：貧しくても働いた人へのご褒美
- ベーシックインカム：働かずしてもらえる保障

# 経済学の講義で心がけていること

数式や専門用語は必要以上に使わない

経済学は“考え方”である

問題発見能力の向上

習ったことを身近な問題に結びつける

思考停止ワードは使わない

それは当たり前、誰が悪いのか、そうするのが筋、など

質問をさせる

集中力と緊張感を与える、スピーカーへの敬意



# 最後に ... 私たちが賢くなろう

## 『学問のすすめ』より

... 西洋の諺に愚民の上にから苛き政府ありとはこの事なり。こは政府の苛きにあらず、愚民の自ら招く災なり。愚民の上に苛き政府あれば、良民の上には良き政府あるの理なり。故に今、我日本国においてもこの人民ありてこの政治あるなり。仮に人民の徳義今日よりも衰えてなお無学文盲に沈むことあらば、政府の法も今一段嚴重になるべく、もしまた人民学問に志して物事の理を知り文明の風に赴くことあらば、政府の法もなおまた寛仁大度の場合に及ぶべし。

ご清聴ありがとうございました